



Teledyne FLIR は、乗用車の衝突被害軽減ブレーキ仕様に関する NHTSA の規制強化を歓迎します

赤外線サーマルカメラの提供を通じて、2029 年から課させる人命第一の新しい PAEB 仕様をメーカーが実現をするのをご支援しています



カリフォルニア州ゴレタ—Teledyne Technologies Incorporated の一部門である [Teledyne FLIR](#) は、[米国運輸省道路交通安全局](#) (NHTSA) が 2029 年 9 月までにすべての乗用車および小型トラックに対歩行者衝突被害軽減ブレーキ (PAEB) の搭載を義務付けるという[連邦自動車安全基準](#)を最終決定したことを高く評価しています。

歩行者死亡事故の 4 分の 3 以上、そして歩行者負傷事故の約半数は暗い夜間に起きています。今回決定された規制では、日中でも夜間でも時速 73km で PAEB システムが作動しなければならないという上限が仕様に盛り込まれることから、自動車メーカーは 10 年後までに既存の PAEB システムの性能を大幅に向上させる必要が生まれています。

Teledyne FLIR の副社長でジェネラルマネージャーの Paul Clayton は次のように説明しています。「小型車に搭載する従来の AEB ハードウェアは、主にレーダーか、あるいはレーダーと可視像カメラの組み合わせで構成されています。しかし、自動車メーカーが新しい PAEB に求められる速度と照明条件のもとでの安全性向上や誤検知に対する要件を達成するには、夜間や視界の悪い状況に対してもっと効果的なセンシング技術を採用すべきだと言えます。当社 Teledyne FLIR ではすでに、既存の AEB システムにサーマルイメージング技術を組み込めば、自動車メーカーは新しい要件を満たし、人命のさらなる安全を図れることを実証しています」。

今も 120 万台以上の自動車がドライバーへの警告システムの一部として Teledyne FLIR のサーマルセンサを活用していますが、さらに Teledyne FLIR は、大手自動車部品メーカー Valeo 社との戦略的提携を通じて、自動車 OEM メーカーが将来の AEB システムにサーマルカメラを迅速に組み込むことができるよう取り組んでいます。この取り組みの成果として、たとえば 1 月には Teledyne FLIR による世界初の ASIL B (Automotive Safety Integrity Level、自動車安全水準) のサーマルカメラを発表しました。

熱エネルギーを検知する車載サーマルカメラは、標準的な小型車のヘッドライトで照らせる距離の数倍も離れた場所の歩行者を確実に検知・分類できることが [VSI Labs 社による調査](#)で確認されています。つまり、サーマルカメラを装備した PAEB システムなら、夜間や視界不良の状況での高速運転中でも、より遠くから、より高い精度に歩行者を検知できるのです。検出精度が向上すれば安全性が高まるだけでなく、誤検出が減って信頼性も向上します。

さらに、レーダーと可視光カメラをベースとした従来の AEB システムとサーマルカメラを併用することで、[霧](#)や雨、煙、強い太陽光がある状況のほか、明るい日中に車両がトンネルから出てくるときや地下道を走行するときに見られる高コントラストで太陽光が影になるといったシナリオなど、多様な悪条件下でも性能が向上します。また AEB システムに根画像技術を統合すると夜間に車道を走る大型動物も検知できるなど、田舎道を走行するときの安全性向上にも有効です。

Teledyne FLIR が自動車の安全性をいかに向上に導いているかについて、詳しくは <https://www.flir.com/oem/adas/>をご覧ください。